

「国際学会参加・発表体験記」

神戸大学大学院 北野 幸子

学会名：環太平洋乳幼児教育学会（Pacific Early Childhood Education Research Association）

開催時期：7月第二週あるいはその前後の金～日

次回開催場所：Sarawak, Malaysia

次回開催日：2018年7月6-8日

環太平洋乳幼児教育学会(PECERA)は、2000年に設立された、比較的新しい学会です。設立者はアメリカのイリノイ大学名誉教授のスボデック先生です。先生は、世界各国から留学生を受け入れておられ、アジアからの留学生も多数おられました。先生は、アジアの大学院生や若手研究者がアメリカやヨーロッパの学会に勉強にでかけていたり、その研究成果を発表したりするのに、大枚をはたかねばならない状況改善したいと話しておられました。学会名に「Research」という語を入れること、学会が単なる社交の場のみとなってしまうことを強く願っておられました。実際、PECERAはアジア・パシフィック地域で大会が開催されることから、私たちにとっては、精神的にも経済的にも比較的気軽に参加できる学会であると思います。

乳幼児教育研究の発展を図る組織として、2000年に設立されたPECERAの第1回大会は日本（神戸大学主催）で開催されました。これが私にとっての初めての国際学会参加となりました。「幼保一元化の今日的課題～日米の改革動向の比較を中心に～（Current Issues on Integrating Early Childhood Care and Education: Comparing issues and strategies for the reform in the US and Japan.）」（*PECERA, International Forum & PECERA Inaugural Conference and Meeting 2000*, p.88, 2000）というタイトルでポスター発表をしました。大学教員になってまだ2年ちょっと過ぎた時期でした。二元化している日本の保育制度の状況を各国の先生にどうやって説明しようか等、初めての国際学会発表にドキドキしながら、前日に英語の発表原稿を片手に一生懸命練習したことが懐かしく思い出されます。

懇親会も大変温かい雰囲気、歌を唄ったりして、各国の先生方と親しくなることができました。この時に出会い、会話し、世界各国の若手の先生方との友情と信頼関係が現在でも続いています。私の嬉しい宝物になっています。PECERAでは、アジア・パシフィック地域での保育学研究的発展を意図した学会であることから、大学院生や若手研究者の学会参加や発表が大いに推奨されています。発表申込み審査については、再審査までの手続きがあり、むげにリジェクトされることは、稀なことです。世界各国の大学院生や若手研究者が、交流するきっかけとして、発表にチャレンジするには、大変よい機会と考えます。

2000年の神戸大会では、スポデック先生に加えて、登壇者には、現ヨーロッパ乳幼児教育学会（EECERA）会長であられるパスカル先生等、憧れの先生方がたくさんおられ、講演やシンポジウムをワクワクしながら拝聴したことが懐かしく思われます。PECERAでは、毎年理事会において、何度も大会開催を希望するノミネート国・地域からのプレゼンを拝聴し、テーマや講演者について議論しつつ大会運営や企画を進めています。ですので、最先端の研究について拝聴することができます。今年の大会のテーマは、ESDであり、OMEFの会長もなさっていたスウェーデンのサムエルソン先生が基調講演者でした。日本からはESDのご研究で著明な井上美智子先生がシンポジストとしてご登壇してくださいました。

環太平洋乳幼児教育学会の日本支部は、2010年3月に組織されました。これは、2011年に再び神戸で国際大会を主催させていただく準備のためです。2011年のPECERAの神戸大会では、新しいチャレンジとして、若手研究者対象の国際学会誌の論文投稿の方法についてのワークショップと、保育実践関係のワークショップ（2011年は臨床美術ワークショップ）を実施させていただきました。以降、PECERAでは、若手研究者対象や保育実践者を対象とした企画が進められています。なお、日本支部では、2012年から毎年、ちょうど世界大会の発表申込み〆切前の2,3月に研究会を開催し、国際大会案内も含めて、保育の科学化などをテーマに保育学研究者と実践者が議論する機会を設けています。PECERAの詳細については、国際学会のHPに加えて、日本支部のグーグルHPやFBもご参照ください。

保育学研究の国際動向を知り、保育学を専門とする同僚と国境を越えて出会い、保育の研究成果を世界の仲間と共有し、対話し、考えるきっかけの第一歩を、私はPECERAを通じて踏み出すことができました。国際学会への参加は、日本の保育の良さを再確認し、日本の保育制度とその実践のさらなる発展を図るための、より幅広い知見を得る機会となることと思います。